応答表現法

―長門方言における―

岡野信子

はじめに

談話のもっとも日常的なものは、二人の間に交わされる対話である。対話は、話しかける与え手と、それを受けとめ、さらには展開していく受け手との間に形成される。この稿では、受け手の発話、すなわち応答表現の発想と形式を見ていく。

応答表現の内部は次のように考えられる。

一、呼びかけに応じる表現

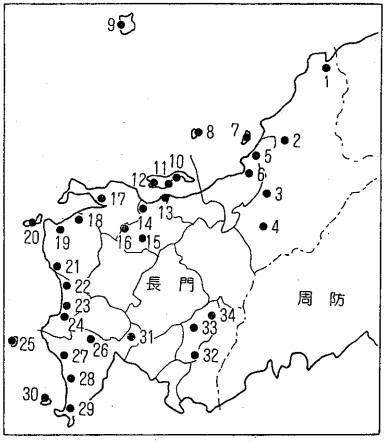
二、問いかけに応じる表現

三、求めに応じる表現。命令、制止、勧奨、勧誘、依頼への応答表現である。

四、語りかけ――説明、述懐など――に応じる表現

五、感謝、賞賛、わびを押し戻す表現

これらを見ていくにあたっては、与え文への応じかたを見るために、与え文をも記している。与え文が調査者のことばであるもの、また土地人のことばであっても聞きとりに不安のあるものは平仮名書きにしている。なお、以下に記す文例は、一九七〇年（昭和四十



1 阿武郡田万川町江崎（タマガワチョー）
2 阿武郡田万川町弥富（ヤトミ）
3 阿武郡川上村
4 阿武郡旭村
5 萩市越ケ浜
6 萩市玉江
7 萩市大島
8 萩市相島
9 萩市見島（カヨイ）
10 長門市通
11 長門市大泊（オートマリ）
12 長門市青海（オーミ）
13 長門市仙崎
14 長門市境川
15 長門市俵山（シチジュー）
16 長門市七重
17 大津郡油谷町掛渕（ユヤチョーカケブチ）
18 豊浦郡豊北町粟野
19 豊浦郡豊北町阿川
20 豊浦郡豊北町角島（ツノシマ）
21 豊浦郡豊北町二見
22 豊浦郡豊浦町湯玉
23 豊浦郡豊浦町小串（コグシ）
24 豊浦郡豊浦町川棚（フタオイジマ）
25 下関市蓋井島
26 下関市内日（ウツイ）
27 下関市吉見
28 下関市安岡
29 下関市彦島（ムツレジマ）
30 下関市六連島
31 下関市吉田
32 厚狭郡楠町船木（フナキ）
33 厚狭郡楠町万倉（マグラ）
34 厚狭郡楠町吉部（キベ）

五年）から一九八九年（平成元年）の間に、自然傍受法によって得たものの中に求めている。特に応答表現調査を意図して得たものではない。

(1) 文例の右傍線はアクセントの高音部である。

(2) 文例に添えた「高男」、「青女」などは、年層と性別の略記で、「高」は高年者、「青」は「青年」を意味する。なお、「調」は調査者の略記である。

(3) 対話の下の数字は地図上の地点番号である。これはここで得られたことを表しているが、ここでしか得られないことを表わしてはいない。

(4) 方言対話の共通語訳は、その必要のないものには添えていない。

一　呼びかけに応じる表現

呼びかけには自己の存在を告知する〝返事〟で応じ、また呼びかけの意図を聞こうとする〝問い返し〟で応じる。

1　返　事

○ヨーイ。↕○ハーイ。〈高男↕高女〉25

○ゴメン。↕○アーイ。〈中女↕高女、たばこ屋の店先で〉25

○ジーサン。↕○オイ。〈中女↕高男〉31

○カーチャー↕○ヨー。〈少女↕母〉8

このように、返事は通常、応答詞の一語文でなされる。長門域で聞く返事の応答文は「ハイ」、「ハーイ」がもっとも多いが、そのほかに、「アーイ」「アー」「アーッ」、「オイ」「オーイ」「オー」「オーッ」「オエ　オエ」、「ヨイ」「ヨー」などを聞いている。これらの品位は「ハイ」系のものがもっとも高く、以下、順に低くなる。諸地で、このごろは「ハイ」と言うが以前は「ハイ」は学校で先生に返事をする時に言うぐらい、「アーッ」がよいことばであったという旨の教示があった。

2　聞き返し

「聞き返し」は、「呼びかけ」の場合ばかりでなく、「問いかけ」や「求め」、あるいは「語りかけ」に対しても発せられる。

「聞き返し」の応答文は、「ハイ」の類と「何」と聞き返す類、および「エー」「ヤー」の類である。

○コドモノ　トキノ　アソビゴトチャー　ドネーナ　コトー　シヨッタロー　カイ。↕○ハイ。〈高女↕高女〉1

子供の時の遊び事といえば、どんなことをしていただろうかね。↕ええ？

問いかけたのは大家の高年女性で、「ハイ」は目上への聞き返しである。

○コレイ。↕○ハーン。〈高男↕妻〉5

「ハーン」は、萩市の相島や越ケ浜で聞いている。女性の上位待遇の語である。相島の若い女性は、お姑さんに聞き返すことばだと説明した。

○チャン　ヒトコーカイ　シテコー　カノー。↕○ナニ　エー。

〈青男↕青男〉27

ちょっと一航海して来ようかのう。↕何かい。

○ヨイ。↕○ナン　ヤー。〈中男↕中男〉19
　よい。↕何かい？
○オバサン。↕○ナニ　カン。〈中女↕高女〉26
○これ、しちょけ　よ。↕○ナニ　カヤイ。〈高女↕高女〉7
○ヒグラシガ　イチバン　コマイ。↕○ナンテー。↑○ヒグラシ。〈少男↕少男↑少男〉19
　（蟬の中で）ひぐらしがいちばん小さい。↕何だって？↑ひぐらしだよ。

「ナンテー」は、「何と言っているのか」である。「何」はこのほかにも、さまざまの問いかけ文末詞に支えられて、聞き返し表現に栄えている。

○チョット　コリ　サン。↕○エーッ。〈妻↕夫〉10
　ちょっとお前さん、ねえ。↕何かい。
○ジワーット　ヤランニャー。↕○ヤーッ。イヤ　ジワーット　ヤッテモ　アレジャー　モテン。〈青男↕中男〉9
　そおっとしなくちゃあ。↕ええっ何？　いや、そおっとしても、あのホースでは保てない。

このように、「エー」、「エーッ」、「ヤ」、「ヤー」、「ヤーッ」の聞き返しも多いが、これらは「ナニ　エー」、「ナン　ヤー」の文末部が一文として用いられたものであろう。

聞き返しは私どもの日常言語表現に多用されているようで、自然傍受で得たものの中に頻出している。

二　問いかけに応じる表現

「問いかけ」に応じるものに、「肯定」、「否定」、「回答保留」（ためらい）の表現がある。また疑問詞での問いかけには、説明表現で応じる。

1　肯定表現

肯定表現の第一には、肯定の応答詞文があげられる。このうちにもっとも多いのは、「ハイ」類の応答詞文であるが、ほかに「アー」、「オイ」、「オー」、「フン」「フーン」、「ウン」「ウーン」もある。またこれらを反復して言うことも多い。

○女の人ももぐってうに採りなどしますか。↕○ハーイ。ウチャーチモ　ズット　イキマス　イナ。（はい。私たちも何年も続けて行ってますよね。）〈調↕中女〉25
○あちこちと縁組みがあるんですね。↕○ハーハー。マー　アソコ　ココ　ノンタ。（はあはあ。まあ、あそこことねえ、ありましたよ）〈調↕高女〉3
○ウエテ　カー。↕○ハン。〈高女↕高女〉8
　（じゃがいも）を植えられてますか。↕はい。

第三の例は問いかけ文の形をとっているが、じゃがいもの苗を植えている人の傍を通り過ぎる時のあいさつである。受けて答える者にも肯定意識はない。

「ハイ」類は、「ハイ」「ハーイ」「ハエ」「ハン」、「ハー」、およびこれらの繰返しと、その語形が多様である。

○オキサエタ　カノー。↕○オイ。〈高男↕高男〉8
　お目覚めかね。↕おい。

○オジキャー　マメナ　カエ。↕○オー。マメナ　マメナ。〈高男↕高男〉15

叔父さんは元気かね。↕おう、元気だ　元気だ。

「オイ」「オー」は大津郡以北で言う。

○女の人が海に潜るんですか。↕○フーン。ホトンド　オンナデス　ネー。〈調↕中女〉25

○タイ　カ。タイ　カ。↕○ウン。タイワ　タイジャガ　フテーゾ。コリャー。〈中男↕中男〉27

鯛が釣れたのか、鯛が。↕うん。鯛は鯛だけれど大きいぞ。

これは。

「フーン」、「ウーン」と長呼したものには、半ば自身にうなずく心持ちが感じられる。

応答詞はこのように一語で応答文を形成しているが、次例のように、応答文の文頭に立つものも多い。

○ホイテ　アスコー　ハー　マワルヨーニ　シタク　セチョルカ。↕○アー　セチョル　ヨ。〈青男↕中男〉9

そしてあそこを廻るように準備をしているか。↕ああ、しているよ。

ところで、肯否を求める問いかけに対して、相手のことばを反復することで肯定を言う表現も多い。

○ソリャー　タイネージダオー　コシテデス　カ。↕○コシテ。ヤマー　コシテ　ムコーエ。〈中男↑高女〉14

それは大寧寺峠を越えてですか。↕越えて。山を越えて向こうに。

肯定を断定的に言いかねるばあいには、つぎのように推量文で答える。

○ソネー　シオガ　ハヤイ　ホカヤ。↕○ジャロー　ダイ。〈中男↕青男〉25

そんなに潮が早いのかい。↕だろうよ。

疑問詞での問いかけ文には実内容を答えるのであるが、そのばあいにもつぎのように、まず「アー」と受け止めることがある。

○ナニオ　ヤッタ。ナニオ。↕○アー　エドダエ　エドダエ。〈中男↕中男〉27

何を釣ったのか、何を。↕あゝ。（たいしたことはない）ほんの餌代ぐらいのものだ。

さて、肯否を求める問いかけに対しても、実内容を求める問いかけに対しても、問いの中に答の要素がふくまれるばあいには、「ソレ」（そうだ）と答えることがある。

○子供のいるような男性にも「ニーマー」と呼びかけるんでしょうか。↕○ハー　ソリャー　ソレ。（はあ、そうですよ）〈調↕高男〉15

○あちらでは「これこれ」と聞きましたが、ここではどう言われますか。↕○ツイ　ソレ。（そのままのことばですよ）〈調↕高男〉19

2　否定表現

否定の応答文を形成する応答詞は、「イエ」、「イーエ」、「イヤ」、「イーヤ」、「インヤ」、「インニャ」、「ウンニャ」、「ウ

ンナ」である。品位は「イエ」、「イーエ」がもっとも高く、以下順に低くなる。「ウンニャ」「ウンナ」は男性が対等以下に言うものである。

○さつまいもは牛に食べさせたのですか。↕イーエ　ノー。ジブンラガ　タベル。（いいえ違いますよ。自分たちが食べるんですよ）〈調↕高女〉9

○そりゃあ　きのうのことか。↕○インヤ。マダ　ズット　マエ。（いや、まだずっと前のことだ。〈中男↕中男〉27

○お前、あの仕事はすんだのか。○↕ウンニャ。アリャ　モーナン　ド。（いや。あれはもうこうなんだよ）〈高男↕高男〉19

これらは「応答詞＋（文末詞）」の応答文であるが、次のものは応答詞を文頭に持つ応答文である。

○オドリエル　カナ。↕イヤ　エン　チャ。〈高女↓高女〉27

踊ることができるかね。↕いやできないよ。

否定の応答表現には、つぎのように「ナニ」を言うものもある。この否定には相手のことばをはね返す語気があり、反駁に近い。

○イッタ　カシラン。↕○ナニ　イキャー　セン。〈高男↕高男〉19

行ったかしらん。↕いいや、行きはしない。

○このごろは相島でも「ジャッタ」（来られた・居られた）を聞かないような気がしますが。↕○ナニガ。ソリャ　ヒトガ　オル　トコジャー　エー　コトバ　ツカウソジャ。（いや、そんなことはない。それは他地の人がいる所ではいいことばを使うのだ。島の人どうしでは言ってるよ）8

2′　否定の問いかけに応じる否定表現

この項にかぎっては、一九八九年（平成元年）夏に意図的調査をおこなっている。すなわち下関市内三十地点で、高年男性と少年一名ずつに、「外から帰ってきた人から〝電話はかからなかったか〟と聞かれた時、かかってなかったらどう答えますか」と聞いた。

これは梅光女学院大学日本文学科三年、四年の学生が、日本語学演習としておこなった調査の一項目である。調査は学生が二名一組となっておこなった。

その報告を整理してみると、高年者、少年者がともに「ウン」と肯定の応答詞で答えているのは一地点だけ、高・少いずれかが「ウン」と答えたのは三地点、その他は「イーヤ」、「インニャ」、「ウンニャ」と、否定の応答詞で応じている。

このような傾向は長門域南部、すなわち豊浦郡の、ことに響灘沿岸域に顕著に認められる。大津郡以北の状況は明らかにし得ていないが、このように単純ではないらしい。ただし、萩市見島では先の問いに「イヤ　カカラザッタ」〈高年・中年〉の答を得ており、青海島（おおみしまかよい）の通でも「インヤ　カカランジャッタ　イネ」〈青女〉であった。

ところでこの応答表現の九州方言状況は、『九州方言の基礎的研究』（九州方言学会編、風間書房、昭和四十四年）にある。昭和三十九年、四十年の調査結果であるが、「手紙が来ていないか」の問いに「来ていない」と答える時の応答詞は、日向北部だけが「ウン」、その他は「インヤ」、「ウンニャ」など、否定の応答詞で応

じている。長門域南部の状況は、九州の状況にきわめて近い。

なおこの応答表現の全国状況は、国立国語研究所話しことば研究室の、※〈「全国方言文法の対比的研究」の調査Ⅱに関する中間報告〉（一九六七年十月）に報告されている。これには、「九州・沖縄と対立する傾向を見せるのは近畿あたりだけ、他は中間のあいまいな傾向と見られるかもしれない」とある。

※報告プリントの表紙に「この報告は昭和四十一年度に話しことば研究室が地方研究員に委嘱して行なった調査の一部に関する中間報告である。なお、この調査についての立案と結果の整理とは宮地裕がおこなった」とある。

これの調査は同研究所においてその後もおこなわれているので、やがて『方言文法全国地図』のどの巻かで、全国状況の中の長門域の状況を見ることができるであろう。

3　回答保留――ためらい――の表現

問いかけに対して即座に答えを出さず、一呼吸置いたことばで応じるのを、回答保留の表現とする。即答をためらう心情が見えるので、ためらいの応答表現と言ってもよい。共通語の「そうね」（女）、「そうだな」（男）に相当する表現に、当域では「されば」系の「サーリャ」、「サーラ」があり、「サーテ」「サー」も言う。また指示語の「ソレ」を言うこともあり、疑問詞の「ドー」を言うこともある。

○田中さんはどこにいらしたんでしょうかねえ。↕○サーリャノンタ。（さてねえ）〈調↕高女〉11

○イマデ　ユータラ　ナンジデ　アリマス　カイナ。↑○サラナー。サンジゴロガ　イチバンダイコチュテ……。〈高男↕高女〉10

今で言ったら（捕鯨に出るのは）何時ごろですかね。↕○さてねえ。午前三時ごろが一番太鼓といって……。

○道はどう行けばいいんでしょうか。↕○サーテ　ネー。〈調↕高女〉28

○船はいつごろ帰りますか。↕○サー　ドネージャロー　カエナ。（さあ、どうでしょうかねえ）〈調↕高女〉19

「サー」は全域で言うが、「サーリャ」系の応答詞を言うのは大津郡以北、すなわち長門北半域である。

○お寺さんにはどのようにあいさつなさいますか。↕サー　ソレイネー。ドネー　ユータラ　ヨカロー　カ。（さあそうだねえ。どう言ったらいいだろうか）〈調↕中男〉4

○妹さんなんかに聞き返す時はどう言われますか。↕○ソレデスイネー。（そうですねえ）28

このように「ソレ」を言う返事保留の表現は長門全域にある。

○船木には宿屋がどれくらいありましたか。↕○ドネージャッタロー　カェエ。（どうだったでしょうかね）〈調↕高女〉34

○捕鯨で働いていた人はどれくらい？↕○ドーデショー　キャエ。オボエマセン　チャ。（どうでしょうかい。覚えてませんよ）〈調↕高女〉10

回答保留の応答表現は疑問詞での問いかけに応じるばあいに多く現れる。その内部はかなり多様で、表現に工夫をこらしていると察せられる。

以上、問いかけに応じる表現を、肯定、否定、回答保留と見てきたが、否定の表現は表現形式がもっとも単純、かつ日常生活の中での出現頻度数も少ない。

三　求めに応じる表現

命令、制止、勧奨、勧誘、依頼に応じる表現は、応諾、拒否、反駁である。

1　応諾の表現

応諾の表現は、応答詞「ハイ」「ハー」「オー」によってなされ、また「エー」（よい）を言うこともある。

○ユーチョイテ　クンナイ　ナ。↕○ハイ　ハーイ。〈中女↕高女〉30

言っておいておくれよね。↕はい、はあい。

○コレ　シチョケ　ヨ。↕○ハー　シチョコー　イナ。〈高男↕妻〉27

これをしておけよ。↕はあ、しておきましょうよ。

○ナツコ　ガッコ　イコー　ヤー。↕○オー　イクカラ　マッチョッチャレー　カ。〈少女↕少女〉8

夏子、学校に行こうよ。↕おう、行くから待っておいてくれ、ね。

○オチャ　スコシ　オクレー　ナ。↕○ハー　エー　ガナ。コレトリー　ナ。〈高女↕高女〉28

お茶を少しおくれよ。↕はあいいよ。これをお取りよ。

「エー」（よい）で応諾を言うばあいも、このように文頭に応諾詞の「ハー」を言うことがある。

2　拒否の表現

○オドッチャー　ナイ　カネ。↕○イヤナ　コト。〈高女↕高女〉27

踊られませんか。↕いやだよ。

○先生に話をしておあげよ。↕○イヤッ　チャ。オラー　モー。（いやったら。私はもう）〈高女↕中女〉25

拒否にはこのように、全域で「イヤ」を言うが、見島・相島と青海島の通とでは、「イラン」を聞いている。

○イッチャー　ナイ　カナ。↕○イラン　デー。〈高女↕高女〉10

行かれませんか↕いや、行かないよ。

○コレ　シチョッテ　クレー　ヤ。↕○イラン　イネ。〈高女↕少女〉10

これをしておいておくれよ。↕いやよね。

○オマーモ　ナカマー　イラシチャレー　サシチャレー　カー。↕○オマー　イラン　デョー。オマー　バー　サセン　デョー。〈少女↕少女〉8

私も仲間に入れてくれ、させてくれ、ね。↕私はいやだよ。私はさせないよ。（「バー」は感動詞「ワー」であろうか）

○ウチ　アソビニ　コン　カー。↕○イラーン。〈少男↕少男〉9

私の家に遊びに来ないか。↕いやだ。

○セテ　ヤラン　カ。↕○イラーン。〈少女↕少女〉9

しれくれないか。↕いやよ。

3　反駁の表現

相手の批判、教示に反駁する表現として、次のものを得ている。

○ジオージャナンカ　ユータッテ。↕○ナンテ。ソレガ　エースジャケ　ソレガ　エースジャケ。〈中男↕中男〉27

ジオー（北西風）だのなんだの言ったって、この人たち（調査者たち）にわかるものか。↕なんてことを言うのか。それがいいんだから、それがいいんだから（この人たちは方言を聞きに来ているんだから）。

○ヒトノマエオ　トール　モンジャ　ナー。↕○エー　ワヤー。〈高女↕幼男〉8

お客様の前を通ってはいけない。↕いいじゃないか。

拒否や反駁の表現の得られたものが少ないのは、日常生活の中にそれらがさほど多く現われないことと同時に、それらは、他地から訪れた調査者の耳には入りにくいという限界があるのかもしれない。

四　語りかけに応じる表現

相手の説明や述懐を受けとめ応じる表現には、了解、納得を言うもの、疑念を言うもの、共感、同意を言うもの、得心を言うものがあり、進んで意見を開陳する応答表現もある。

1了解、納得を言う表現

相手の説明にうなずく表現である。肯定の応答詞による応答表現、「ソレか」「ソレだろう」、「ホントーか」とうなずく応答表現があり、反復して問い返す形式の納得表現もある。

(1)　肯定の応答詞による応答表現

○ホラ　コンニ　アラー。↕○ハイ　ハイ　ハイ。〈高女↕中女〉17

ほら、ここにあるよ。↕はいはいはい。

○ソンノ　サンニョー。↕○フーン。〈中女↕高女〉〈山陰線の車中、行商の人〉

捐をした計算をしているの。↕ふうん、そうかね。

○ツイタチスギタラ　イラン　ヨ。↕○ハー　ハー　エー　コト。〈高女↕高男〉22

ついたち（一日）を過ぎたらいらないよ。↕はあはあいいよ、わかった。

これらのほかに、「オー　オー」と言ううなずき文もある。また江崎の高年女性は、この地の高年女性は「ヘーン　ヘーン」とあいずちを打つので、他地から帰ってきた当座はそれがおかしかったと語った。

これらの応答詞文は、つぎのように相手のことばの終わりを待たずに発せられることも多い。

○ツイ　シタシゲニ　ヨブカラ↕○ハー　ハー。↑○アネー　ナルホジャロー　ネー。〈高女↕高男↑高女〉28

何やら親しそうに呼ぶから（はあはあ）あのようになるんだろうねえ。

これは相手の話を聞いていることを示し、さらには先を促すものである。日常会話にはこの種の応答のなされることが多い。

(2)　「ソレか」とうなずく応答表現

この内部には、まず応答詞が発せられて「ソレか」と続くもの

と、応答詞なしに「ソレか」とうなずくものとがある。今、平仮名書きの「か」には問いかけの文末詞を代表させている。

○ワタシャ　ゴセンエンタ　ヤッタ。↕○ハー　ソレ　カナ。〈高女↕高女〉15

私は（孫たちに）五千円ずつやった。↕はあ、そうかね。

○この土地の昔からのことを聞きに来ました。↕○オー　ソレノ。（おお、そうですか）〈調↑中女〉19

これらは応答詞が先行している。

○以前来られた先生があした来られるそうだ。↕マー　ヘー　カナ。〈中男↑母〉12

このように感動詞の先行するものもある。「ヘー」は「ソレ」の音変化したものである。

○アリャー　ナニガ　エー　トイノ。↕○ソレ　カノ。〈高女↕高女〉2

あれはあれがよいということだよ↕そうかね。

○センセー　アネー　ユーチャッタ。↕○ホイ　カン。〈青女↕母〉21

先生があのように言われた。↕そうかね。

これらは応答詞なしに「ソレ」と受けとめた応答文である。「ソレ」という受けとめは肯定の応答にもすでに出ている。指示代名詞「ソレ」の多用は当域の応答表現の一特色である。その文末に働く問いかけの文末詞には、「そうなのか、なるほど」と、受手が自身の心の中に受けとめる心情が託されている。

(3)　「ソレジャロー」「ジャロー」とうなずく応答表現

○木が茂ってきて見えんごとなったんじゃろう。↕○ソレデショー。（そうでしょう）〈高男↕高女〉3

推量形式で納得、了解を言う応答表現は、問いかけ形式で言うものよりもいちだんと積極的な受けとめである。この応答文が、次のように受け手の発話の第二文以下に出ることもある。

○私の方ではウラジロ（しだ）って言います。↕○コロー（これを？）。ウラガ　シローケ　ナー。ソリャ　ソレジャロー。（裏が白いからねえ。なるほどそうだろう）〈調↕高女〉

また「ソレジャロー」は、「ジャロー」だけで言われるほうが多い。

○コレグライ　ヒクー　ナッチョル。↑○ジャロー。〈高男↕高男〉20

(4)　「ホントーか」とうなずく応答表現

○ヨー　キク　クスリガ　アル。↕○ホント　エ。〈高女↕高女〉17

「ホントーか」は真偽のたしかめではなく、受け手が自身の心中にうなずく心持ちの表現である。「ホントー　ノ」、「ホント　ヤー」、「フント　ナ」、「フント　エ」など、相手と場面に応じてその形式はさまざまである。

(5)　反復して問い返す納得表現

○ミナミカゼガ　ハエ　チャー。↕○ミナミカゼガ　ハエ　ヤー。〈中男↕中男〉

南風がハエなんだよ↕南風がハエだって？ああそうなのか。

○ハツカスギタラ　ネ。コクラノ　ハナイチバガ　モッテ　コイ

ト。↕○ハツカスギタラ　ヤ。〈青男↕中女〉30
二十日過ぎたらね、小倉の花市場が花を持って来いだって。
↕二十日過ぎたらなのかい。ああそうかい。

この問返しも、受けとめたことを自身の心の中に反芻して定着させる表現である。

2　疑念を言う応答表現

疑念や不安を言う応答表現は、納得、了解の表現形式を借り、それを問いかけのイントネーション、すなわち上昇調で言う。

○ヨー　ヨー　コリ　サンセ。フジツノ　オバーチャン　シンジャッタ　テーナ。↕○ナン　ナ。ソレ　カナ。〈高女↕高女〉15
よいよい、ねえあんた。藤津のおばあちゃんが死なれたそうよ。↕なんですって。ほんとにそう？

○サルワ　ナニ　ヨ。バンニャー　デヤエン　ヨ。↕○フントナ。ソレ　カネ。〈高男↕高男〉14
猿はあれだよ。晩には村に出ることができないよ。↕ほんとかね？そうかね？

3　共感、同意を言う応答表現

共感、同意を言う応答表現でもっとも頻用されているのは「ソレ」を言う表現である。

(1)　「ソレ」と、共感同意を寄せる応答表現

○イケンニャー　モドリャー　エー　ワ。↕○ハー　ソレ。〈中男↕中男〉27
漁がだめならひき返せばいいよ。↕はあ、そのとおり。

○オーキナ　オーカゼデ　ナミガ　フテー　ホイナ。アシコガナー。↕○オー　オー　ソレー。〈高女↓中女〉25
大きな大風で波が大きいのよね。あそこがねえ。↕おお、おお、そうだよ。

これらはまず応答詞で受けとめた後に「ソレ」と言っているが、応答詞なしに「ソレ」と言うこともある。

○アガワノ　モナー　ツリセンモンジャカラ　ノー。↕○ソレイナー。〈高男↕高男〉19
阿川の者は釣専門だからねえ。↕そうなんだよねえ。

○ニガシタラ　ダイジナ　ド。↕○ソレッ　チャ。シンドーガナリヨル　ガ。シンドーガ　ナリヨル　ガ。〈中男↕中男〉
（針にかかっている魚を）逃がしたら大変だぞ。↕そうとも。心臓が鳴ってるよ。心臓が鳴ってるよ。

これらは持ちかけの文末詞に支えられている。

○昔は下関まで歩いて野菜を持って行ったんだそうですね。↕○ハー　ソレソレ。〈調↕高女〉27

○ここは宿場で、栄えていたんだそうですね。↕○ソエソエ。〈調↕高男〉32

このように「ソレ」を反復したものでは、文末詞は言わない。

○早く送らないと魚の値が下がりますね。↕○オー　ソリャー　ソレ。（おお、そのとおりだよ）〈調↕高男〉19

○イカンデモ　ハイットリャー　エー　ノイネ。↕○ソリャー　ソレ　イネ。〈高男↕高女〉3
老人会の会合に行かなくても、入会していればいいんだよ。

↕あなたの言うとおりなんですよ。

「ソリャー　ソレ」は相手の理に同意した表現である。

(2)　「アレ」と共感、同意を寄せる応答表現

○島の人たちはほんとによく働かれますね。↕○アイジャ　アイジャ。（そうだよ。そのとおりだよ）〈調↕中女〉8

共感同意を「アレ」で言うことは長門域ではまれで、カードに残るのはこの一例であるが、下関市安岡では、「アネー　イヤー……」（そう言えば……」を聞いている。

(3)　「ホント」と共感、同意を寄せる応答表現

○雪になったけえ漁はだめじゃね。↕○ホント　イネ。イゴキガトレン　ナ。（そうだよ。動くことができないね）〈中男↕中男〉27

○年配の男性は「ヨイ　ヨイ」と呼びかけてますね。↕○フントアネー　イヤー　ヨイヨイワ　リョーシワ　ツカイマス　ネー。（ほんとそう言えば「ヨイ　ヨイ」は漁師は言いますねえ）〈調↕高男〉28

(4)　ナ行音文末詞一語文の応答表現

○ハワテガ　キタリナンタリ　スルヨーナ　コトバッカリジャナー。↕○ナー。ソレッ　チャ。〈高男↕高男〉27

疾風が来たりなんかするようなことばかりだねえ。↕だよなあ。そうなんだよ。

○コジント　コジキト　チガイマショー。（古人と乞食は違うでしょう）↕○はい、違いますよ。↑○ノンタ（ですよね）〈高女↕調↑高女〉

「ノンタ」は「のうあんた」で、これもナ行音文末詞を内包している。ナ行音文末詞から転成した応答文は、相手の語りかけをまず確認して共感同意を言うものである。この応答文は長門域ではかなり優勢である。

(5)　相手のことばを反芻する応答表現

○コンド　ウマレカワッタラ　コンナ　トコワ　イヤ　ナー。↕○アー　イヤ　ノー。〈中男↕母〉25

今度生まれかわったらこんな所（島）は嫌だねえ。↕ああ、嫌だねえ。

○オヤノ　ユー　コト　キカンホジャ　ナ。↕○キカン　ホイネ〈中女↕中女〉

（あんな服装の子たちは）親の言うことを聞かないんだよ。↕聞かないのよ。

相手のことばの反芻も、「私もそう思う」と共感を言うものである。

(6)　補足の応答表現

○アレダキャー　カンシン。↕○ワカイノニ　ネー。〈高女↕高女〉17

（嫁はよくあいさつをするが）あれだけは感心だ。↕○若いのにねえ。

これは相手のことばを補って、じつは同感を表現しているものである。

4　「ゲント」、「マコト」と、得心を言う応答表現

相手のことばに「いかにもそのとおり」と深くうなずく時、長門

域北部の人々は「ゲント」「ゲンタ」と言う。優勢ではないが、高年者は「ゲンニ」「ゲニ」も言う。「現に」〉「げに」、「げにと」であろうか。

○「コンタニ　マセル」と言っていたそうですが……。↕○コンタニ　マセル。マセルチューテ　イーヨリマシタ　イノー。ゲンニ　ソレソレ。（お前さんにマセル（あげる）。マセルと言ってましたよねえ。いかにもそうでした）〈調↕高女〉11

○「マセル」とも「アゲル」とも言うんでしょうか。↕○ドッチモ　イーマス　ノー。ホント　ゲニ。（どっちも言いますねえ。なるほどなるほど）〈調↕高男〉5

○随分ここも変わりましたねえ。↕○ハー　ゲント。（はあ、そのとおり、いかにも）〈調↕高男〉

○カレイ持っちょってじゃろう。↕○ゲンタ　ゲンタ　カレイガアッタ。（そうだったそうだった。かれいがあった）〈高女↕高女〉

一方、「マコト」は「ゲンニ」系のものほど優勢ではない。筆者のカード上には楠町のものが見えるばかりである。

○井戸はツルイですか。↕○マコト　ソレソレ。（あなたの言うとおり、そうだよ）〈調↕高女〉

「マコト」を言う楠町では、「ゲント」は言わないと教示された。

5　意見開陳の応答表現

○ここにはアガーナってことばがまだ残っているのかと思ってました。—○イヤ　ソレガ　ネー。アガーナッテ　ユーサー……（いやそれがねえ。アガーナと言うのは……）〈調↕高女〉

相手のことばを受けて進んで自身の意見を述べる応答表現では、「イヤ」を発語とすることが多い。感動詞「イヤ」は「イヤッ　ドーショー　カ」のように、驚嘆にも用いられるが、否定の「イヤ」とも関係がありそうに思える。

五　感謝・賞賛・わびを押し戻す表現

感謝やわび、あるいは賞賛のことばを受けた時、これをひたすら押し戻すのは、たとえば欧米の人々の応答表現と比較して、日本人の応答表現の一特色と言えよう。以下に記すように、長門方言においてはその内部も多様である。

(1)　「イーエ」と押し戻す応答表現

○今日は大変お世話になりました。↕○ハ　イーエ。〈調↕中女〉9

○サイサイ　モローテ　スマン　ナー。↕イーヤ　ノー。〈高女↕高女〉

応答詞「ハー」でひとまず受入れた後に「イーエ」と押し戻すのはいんぎんな謙退である。謙退表現の中で、「イーエ」と押し戻すものはもっとも多い。

(2)　「それはありません」と押し戻す応答表現

○ご迷惑をおかけしますね。↕○イヤ　ソリャー　ゴザイマセン。〈調↕高女〉2

○お世話になりました。↕○ハ、イーエ。ソリャー　アリマセンヨ。〈調↕中女〉5

これらは共通語表現の「どう致しまして」相当である。

の普遍と特殊をなお見ていきたい。

(3) 「ナニガ　アータ」と押し戻す応答表現

○まあ、お若いこと。↑○ナニガ　アータ。23

「ナニガ　アータ」、「ナニガ　アンタ」は賞賛に対する謙退で、長門全域で聞く。下関市六連島では、ご馳走を前に恐縮する私に、高年の女性は「ナン　ノ。ナンテ　アンタ」（いやいや遠慮はいりませんよ。何をおっしゃいますか）とすすめたが、他地ではこのようなあいさつを聞いていない。

(4) ナーカナカ

山口県北端の江崎の中年女性は、その家の主人が建てたという住居の立派なことをほめた私に「ナーカナカ。マダマダ　ツイ　ネー。」（どう致しまして。まだまだ手を入れる暇がないままにねえ）と応じた。「ナーカナカ」もこの地でしか聞いていない。

おわりに

このように見てきた長門方言の応答表現は、その応答の種類や発想においては、おおむね共通語とおなじである。たとえば感謝や賞賛、わびを押し戻し、相手の話の途中にうなずき、促しの応答詞をさしはさんで対話を進行させることなどは、共通語ばかりでなく、全国諸方言の応答表現に共通であろう。

であって、そうした発想を託す表現形式には、さまざまの方言特色が見られる。たとえば呼びかけや肯定の応答詞の多様なこと、「ソレ」の多用、北部域で得心の「ゲント」「ゲンタ」がよく聞かれること、二、三の地であるが、拒絶に「イラン」を言うことなど、長門域の応答表現にも特色はさまざまに認められた。応答表現